はじめに

「循環器の病棟に配属されたけれど，どうやって勉強すればよい？」
「循環器疾患の患者さんが来局したら，どのように説明をすればよい？」
「循環器疾患の疑問を相談できる先輩がいないけど，どうしよう？」

このような悩みをもつのは，決してあなただけではありません．

筆者である私たちも，若かりし頃に同じ悩みを抱えていました．だからこそ，これから循環器に携わる薬剤師の皆さんに同じ思いをしてもらいたくないですし，皆さんが歩みを進めるなかでの道標になりたいと考えてきました．そこで，これから循環器に携わる薬剤師の皆さんに向けて，はじめの一歩を踏み出すための背中を押せるような参考書を作りたいと思い立ちました．

書籍化を実現するために，循環器をこよなく愛する薬剤師が結集した，「循環器病薬剤師ネットワーク」のメンバーが協力して執筆にあたりました．なお，筆者には循環器領域に従事する経験年数が５年程度の若手薬剤師に多く加わっていただき，初学者だった頃の学びで役に立った考え方やポイント，これまでに培ってきた患者さんフォローのコツを，わかりやすくまとめてもらいました．

循環器疾患に対する薬物療法において大事なことは，痛み止めのように症状を緩和するだけでなく，ある疾患を発症した後に「再発やさらに悪い状況に至ることを予防する」，いわゆる二次予防を目指すことです．つまり，われわれ薬剤師には，単なる薬の説明にとどまらず，処方内容からその患者さんの未来を想像し，適切に対応する能力が求められます．

これをふまえて，本書では疾患ごとに症例を提示し，病態や処方意図に加えて，薬剤師がなすべき患者さんへのアクションについてできるだけわかりやすい言葉で記述しています．そして，ひと目で疾患のポイントを把握できる「これだけは必ずチェック！」，さらに知識を深めたい方に向けて「もう一歩踏み込んで知っておこう！」といった項目を設け，さまざまな

ニーズに応えられるよう工夫しました.

本書を参考にして，多くの薬剤師が循環器領域へのはじめの一歩を踏み出し，臨床の場で多くの経験と知識を養っていただきたいと思います.

「循環器疾患に携わるのっておもしろいよね」と多くの薬剤師に感じていただき，本書の知識を共通言語として語り合える日がくることを願って.

2024年7月

豊橋ハートセンター　薬局
芦川　直也
安城更生病院　薬剤部
澤田　和久
聖マリアンナ医科大学病院　治験管理室
土岐　真路